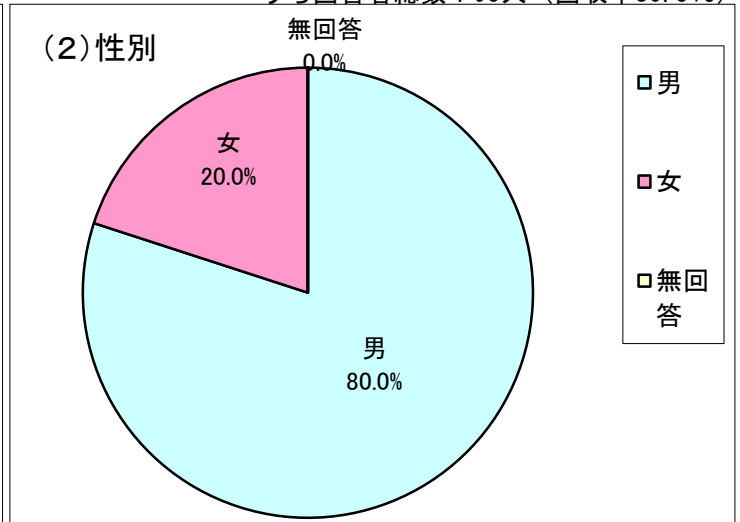
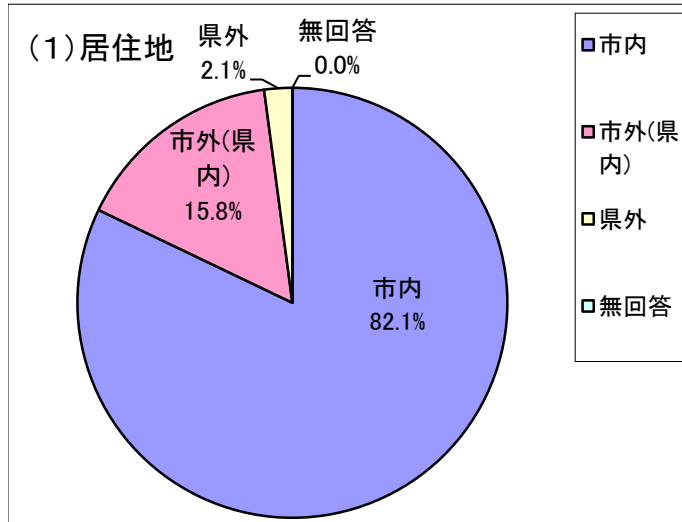


散居村の保全と活用シンポジウム【第1回】アンケート結果

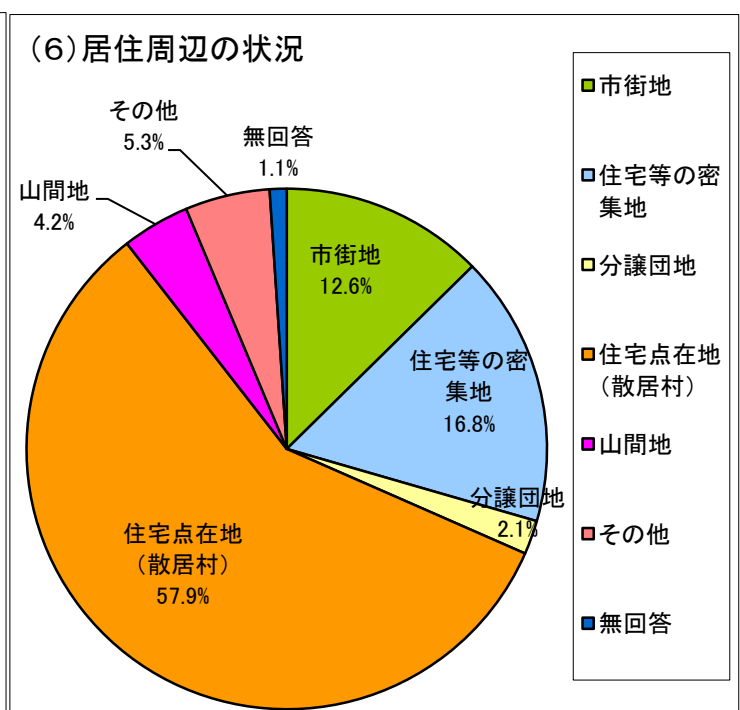
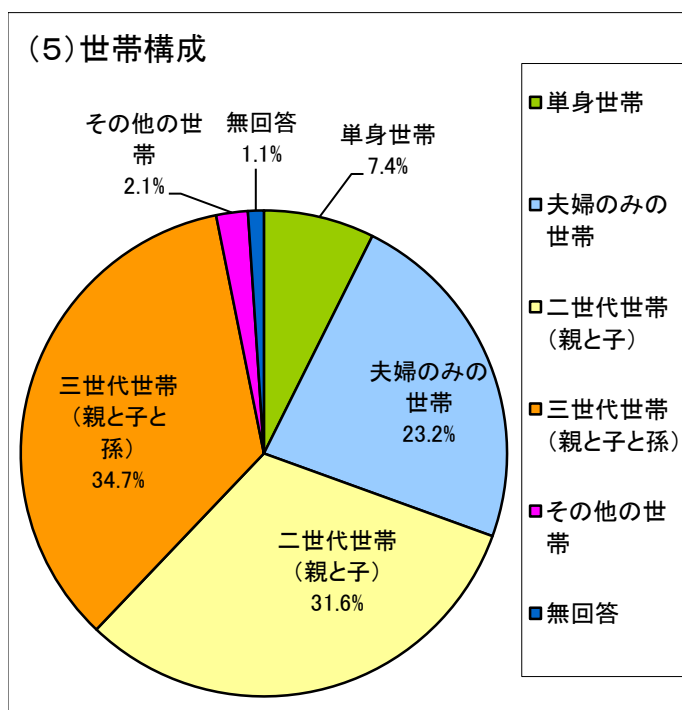
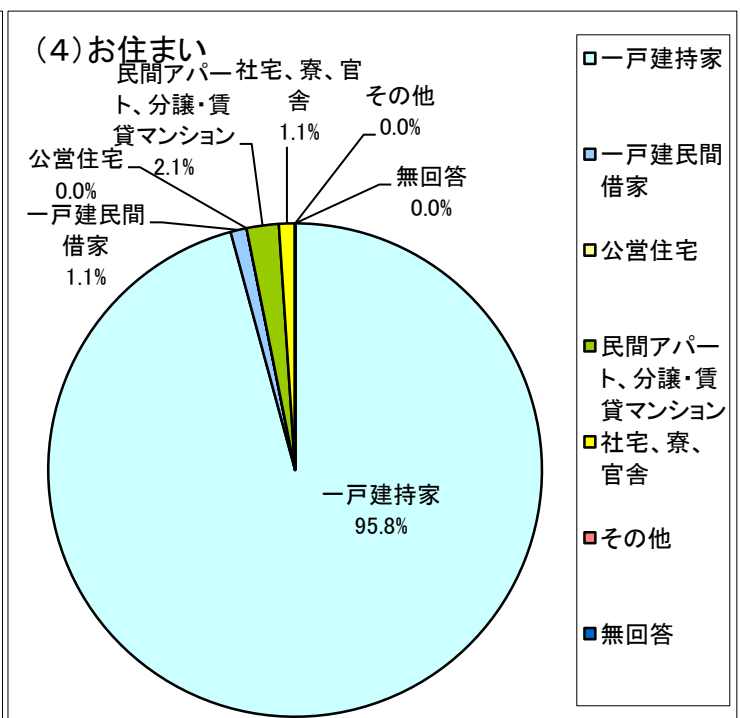
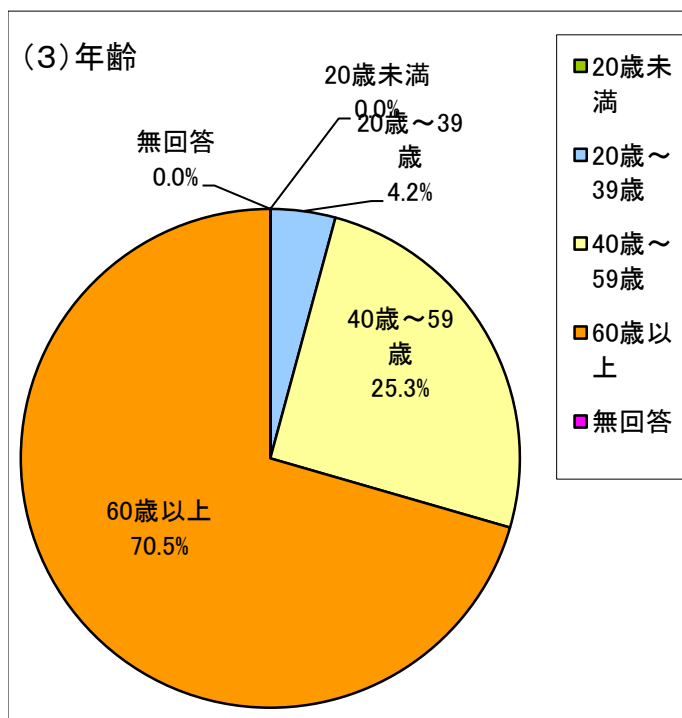
H24. 9. 23開催

アンケート配布数：110人

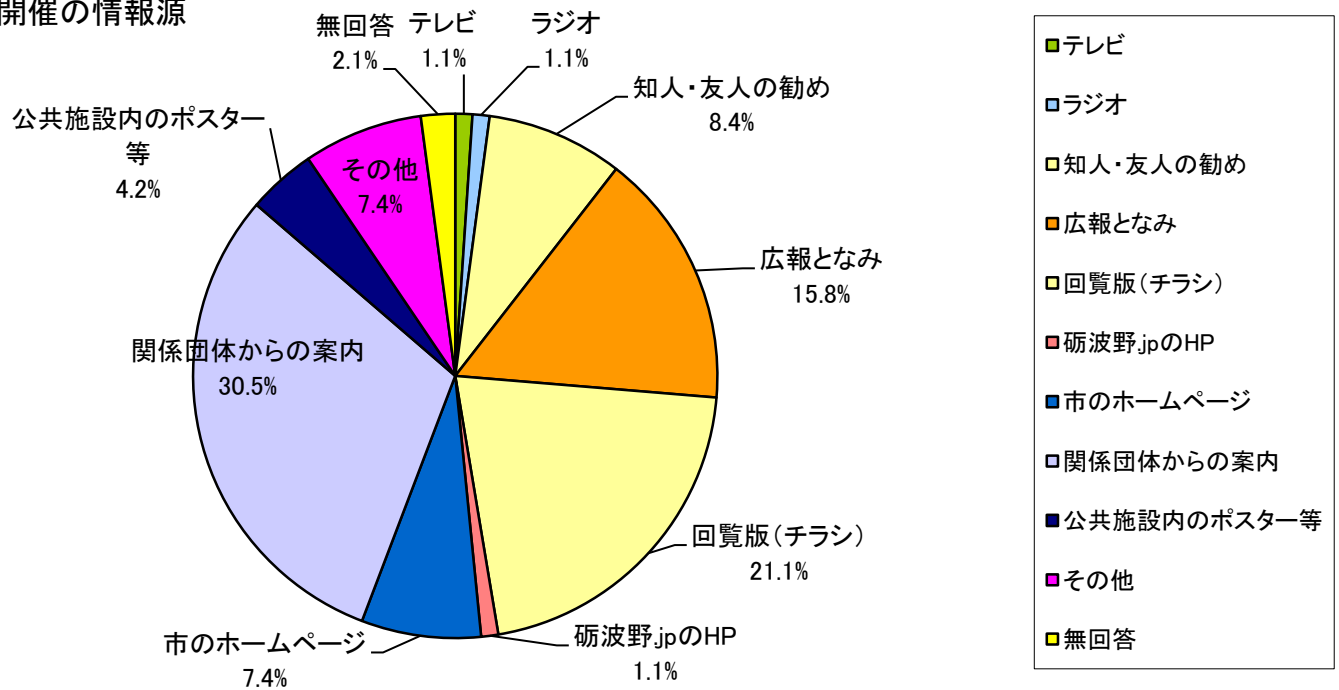
うち回答者総数：95人（回収率86.3%）



● 県外：石川県(1名)、無記名(1名)

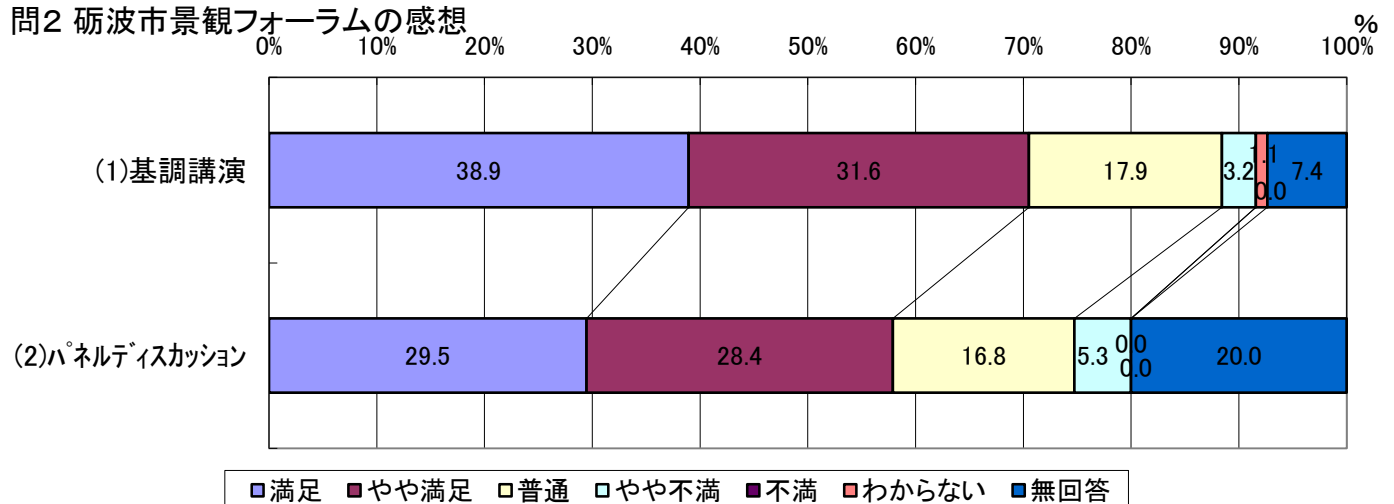


問1 開催の情報源

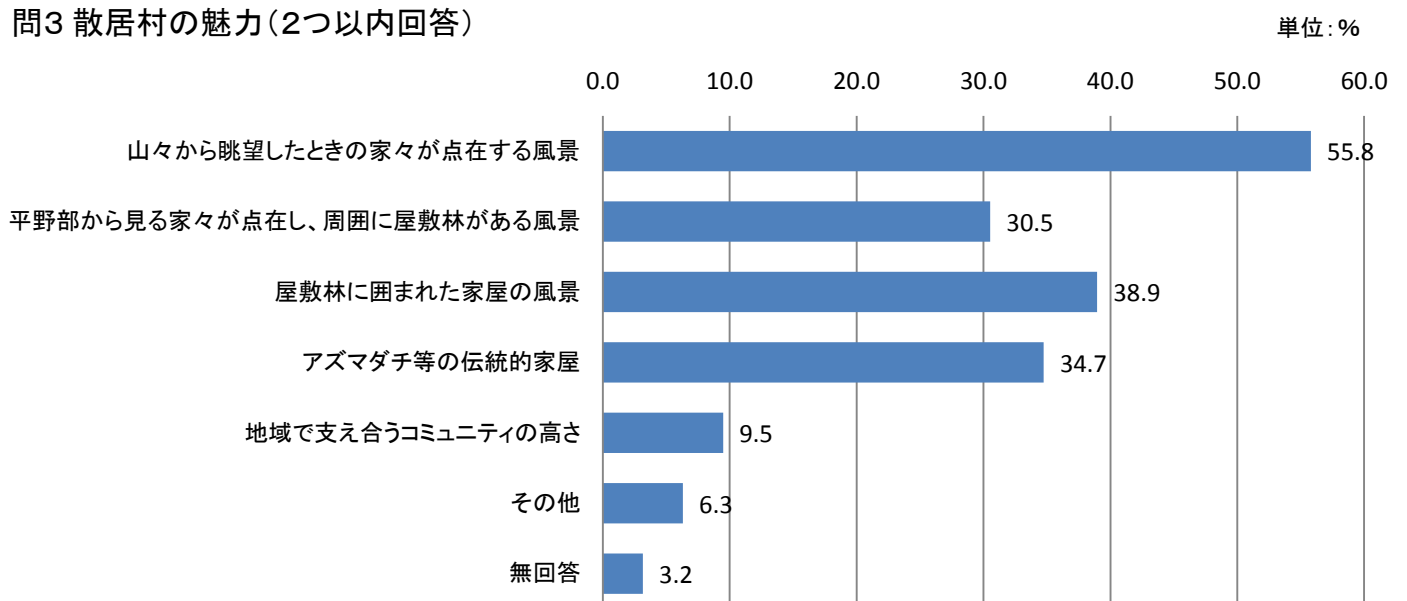


●その他：新聞社説(2件)、Face book(1件)、職場の案内(1件)

問2 砺波市景観フォーラムの感想



問3 散居村の魅力(2つ以内回答)



●その他の意見：

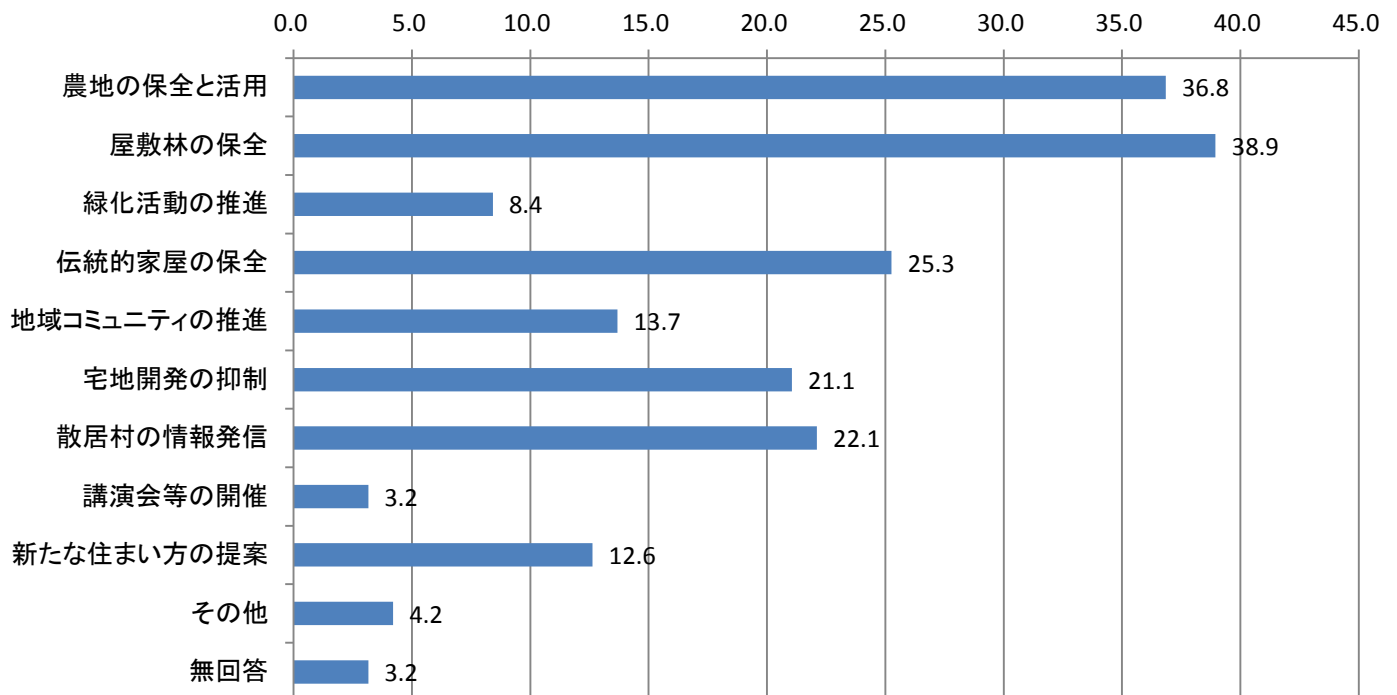
- ・隣近所に遠慮せずに暮らせるところ(2件)
- ・2世帯、3世帯同居の家族生活(子供を育てるのは家庭です。中身の無い散居村ではいけない)

(前ページ続き)

- ・屋敷林に囲まれた家屋の暮らしぶり、家の造り、お茶の一服も
- ・鳥たちと一緒に住む屋敷林
- ・自然の中に住んでいると感じられるところ

問4 魅力を高めるための取組(2つ以内回答)

単位: %

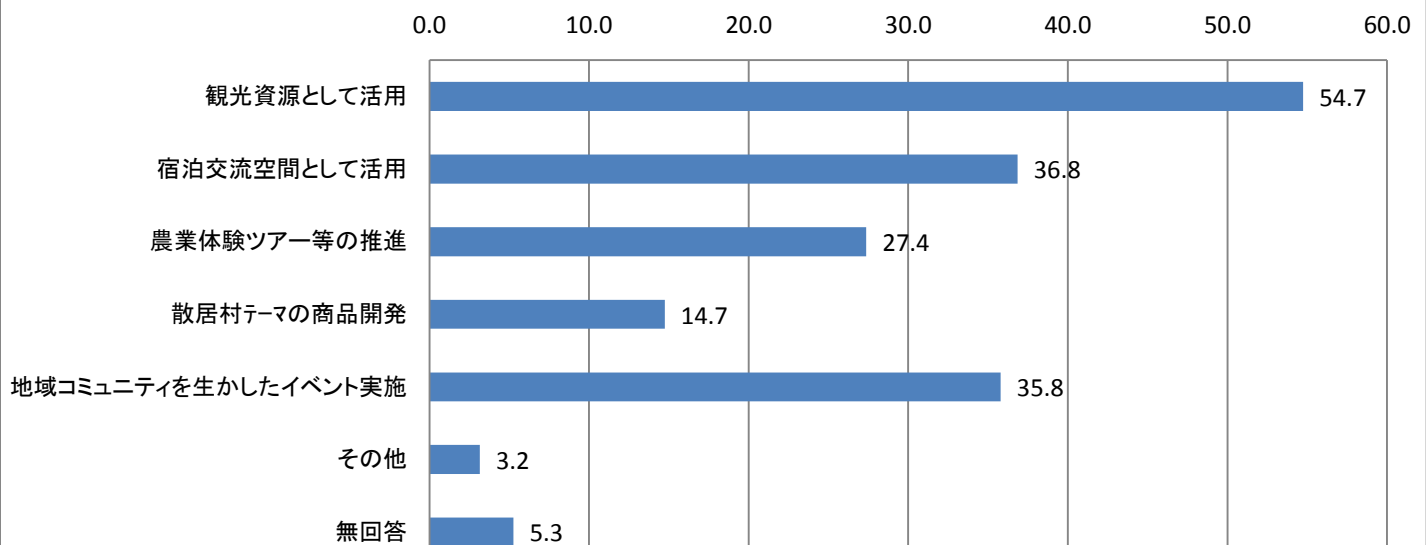


●その他の意見:

- ・景観保全と生活文化の保全を図る
- ・壮大な取組が必要
- ・空き家への他県、他地域からの定住促進
- ・画一的な開発を抑制し、散居にふさわしい宅地開発を促進する
- ・お金をかけないやり方で、伝統的・家屋を活用してできるリフォームの提案

問5 散居村の活用方法(2つ以内回答)

単位: %



●その他の意見:

- ・土地生産活動を拡大する
- ・景観又は、一定空間の特区構想
- ・行政指導の強化

問6. 自由記入

<散居村の保全について>

- ・地域の誇りが何なのかを明確にしてはどうか。守り続けられれば、おのずと散居村が守られると思う。
- ・散居村の保存は、そこに住む人がその価値を認識しない限り継続が難しい。日常生活において多少の不便はあるにしても、その保存・利用の有用性(伝統や地域への愛着・誇り等)を認識して、そこにすみ続けようとする意思を持つことにかかっている。
- ・高齢社会が進む中で、散居村で生活することは、地域コミュニティの考えが広がるのが大切だと思う。高齢者の一人暮らし夫婦のみの方が多く、福祉の面からも捉え、また誰が屋敷林を守るのかを考えて欲しい。
- ・最近、近くに数十戸の団地が出来て、我が家から立山連峰が見えなくなった。夢の平展望台から見る景観もここ10年でも随分変わったと思う。少し遅かったかもしれないが、今後はこの考えが少しでも皆さんが考慮して頂ければ良いと思う。
- ・今の生活スタイルと屋敷林のある伝統的家屋での暮らしとのギャップをどうするか。犠牲とならずに楽しんで暮らせるにはどうするか。(落ち葉、草むしり、庭木の手入れ、広い家屋の清掃、古民家となった家の手入れ、補修などの手間や時間等)
- ・保存が先にありきではなく、現代の生活に即した家屋・屋敷の有様を住民自らが考えていくべきもの。そのためにもまず散居村のメリット・デメリットを歴史にも照らし、再確認することが必要不可欠である。
- ・昔の生活の良さを生かすような活動をする。苦労や困難な点を大事に守りながら活動する。
- ・「循環型の生産活動」というのは、持続的に考えると、極めて重要なpointだと思います。
- ・用水管理、農地保全、山間地を含む樹木管理が必要。

<散居村の保全(開発)について>

- ・生活様式の変化、核家族化により、散村が急激に減少してきていると思う。空き家対策を進めるとともに、宅地開発の抑制により農地・農村を守ること。
- ・演題の通り世界に誇れる日本の原風景「散居村」には、周囲の開発(例えば道路工事等)はこれ以上必要ないと思う。開発という語、裏を返せば破壊(自然環境等の破壊)に繋がる。
- ・宅地開発を抑制すべきでないと思います。抑制しては進歩がないと思っています。

<散居村の保全(定住対策)について>

- ・地域に愛着を持った居住感覚と移住を少なくする(若い人が出ていく)感覚を持つこと。
- ・若い世帯が収入を得る職場の確保が必要。
- ・宿泊交流の体験者をもっと増やすことが必要。
- ・散居村で生活が営むことができるように、政策や諸施策を行うことで誘導することが出来ると考えます。
- ・アピールをして、全国から散居村、建築物、夜高祭り、庄川を目的に観光、移住してきたくなる様な取り組み、アピールが必要だと思います。実際、私は半年住んでみても知りえるチャンスはそう多くなく・・・。

<空き家対策について>

- ・少子・高齢化に伴い、今後空き家が増えるかと思いますが、この対策を早急に検討する必要があると思います。
- ・私の地区にも屋敷林の立派な家がありますが、旧家で住人は都会へ出て行って半年に1回程度しか実家に戻らず、特に杉の大木があり落ち葉が山のように地面にあるのでシルバー人材に管理を依頼されているようですが、お金の入用が大変かなと思います。屋敷林を保持するにはお金が必要です。管理費などは保存会で費用を出せばよいのではないかと。
- ・空き家の維持管理を地域住民で(必要経費は家の持ち主が負担する)。
- ・空き家は、貸家や別荘のPRと市役所の直接介入(売人・買人の不安解消のため)。
- ・空き家活用として、自炊設備を持たせた家族滞在型の宿泊設備。

<屋敷林について>

- ・景観としての散居、屋敷林の視点では、個人の屋敷林保全には難が多い。屋敷林の(忘れられた)効用の再発見と、台風などで樹木の被災をどの様に克服するかの知恵を出し合うことが求められる。
- ・垣根のある暮らしに役目を与えることが出来るか？農業では本当に食べていけないのか？議論が必要。

<行政の取組について>

- ・看板やネオンの規制も必要ではないか。
- ・行政指導により、形態の理想的機能や景観を創出すること。10年先の形態を考えること。行政担当者がコロコロ変わっては無理か。
- ・保全は、規制や関係団体(土地改良区、道路管理者等)の連携を密にして事業を進める。しかし市民に(活用方法、効用、効果を)訴えるには、満足度合いについて検討する必要がある。
- ・行政が主導するのは難しい。方向を示す程度で良い。住居・カインヨは所有者にお任せする方が良いのでは。景観は個人差が多い。

(前ページ続き)

- ・ 周辺の南砺市、小矢部市、高岡市、射水市との協調を取らないと、散居景観保全は難しいと思います。(2名)
- ・ 景観を保存するため、市のPRや補助金を出して、建物の修理や屋敷林の維持管理などの負担を少なくする。(7名)
- ・ 県や市が散居村に住んでいる人の税金等を軽くする(2件)

＜啓発活動などソフト面＞

- ・ 市内の方々、地元の人たち皆さんが砺波をまず始めに知ること、それから広げていくべきだと思います。(2件)
- ・ 散居村(景観、家屋等)が地域の財産であるという認識を、いかに多くの方に知ってもらうかが重要である。(町屋、アパートに住んでいる人も含めて)(4件)
- ・ 散居村の保全、活用について情報交換の場をもっと持つべきではないか。本日のパネルディスカッションの小型化したものを各地区で開催すべきである。
- ・ 市民のコミュニティを生かし、講演が必要だと思う。
- ・ 子供達への教育、親(団塊世代以降)の教育。どの様に市民ボランティアを引き上げていくか。行政からの押し付けでは意識は上がらないと思うし、何か秘策を練る必要がある。2回目は、このことに配慮したシンポになれば良いの
- ・ 散居の家を一軒一軒リレー形式で広報に紹介していけば良いのではないか。カイニョにまつわる悲喜交々をコメントに取り込んでいけば、改めて良さが分かってもらえ、自慢に変わるのでは。
- ・ カイニョ、古い住宅の保全には、それなりの労力と資金が必要であり、補助金は不要だが、それらをうまく生かすアイデアの発信が求められる。

＜シンポジウムの感想＞

- ・ 本会のような活用シンポジウムは大変必要と考えます。第2回、第3回の開催を期待しています。
- ・ パネリストの熱い想いが伝わってきました。郷土に誇りを持って行きたいと思うし、自分の家のカイニョを守っていききたい。
- ・ 半年前に砺波に来ましたが、散居村の魅力、カイニョの意味など知らない事が多く、今日はとても良い勉強になりました。この様なシンポジウムにもっと若い世代(30,40代)が参加されるともっと広がっていくと思います(年配の方が多かったように思います)。今日は、本当に良い機会となりました。ありがとうございました。
- ・ シンポジウムの終了時間は守るべき。だれだれになる。
- ・ パネルディスカッションをうたいながら、ディスカッションしていない。単なるパネラーの発言の押し売りであり、聴講者の広い意見を収集すべき。
- ・ 最後の意見交流にもっと時間が取れると良かったですね。(この前のシンポ等の流れからすると、確かに一歩進んだ内容となっていると思います)。
- ・ パネルディスカッションの司会者の発言がやや多い。(2件)